

vol. 2315

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に入れて徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！
第71次教育研究大分県集会

日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！

第71次教育研究大分県集会

全体会	とき：10月28日(土)	ところ：教育会館 多目的ホール
分科会	とき：10月29日(日)	ところ：教育会館 各研究室

全体会

今年度の県教研全体会は教育会館多目的ホールを会場として、県教組、高教組の組合員の参加で盛大に開催されました。齊加尚代さん(毎日放送ディレクター・映画監督)による「教育は希望-映画『教育と愛国』で伝えたいこと-」と題した講演が行われました。『教育と愛国』の上映も行いました。

その後、今年度の大分県高校生平和大使の小松杏さん(情報科学高校)と仲間も参加し、「高校生1万人署名」についての説明や活動報告をしました。多くの方が、「核も戦争もない平和な未来を創ろう!」という趣旨に賛同し、署名をしてくださいました。

講師：齊加尚代さん

● 参加者の感想 ●

- とてもすばらしい学習ができました。私たちは、教科書で教えるのではなく、自分たちが直接目でみて、耳で聞いて、感じたことを伝えていかないといけないと思いました。教科書は、変えられていることを日頃から子どもたちに伝えています。真実を見抜く力を身につけさせなければならぬと感じました。
- 教育が政治に左右されていることを改めて感じました。これは本当に正しいのかと常に疑問をもちながらとりくむことの大切さを感じました。ありがとうございました。
- 愛国心は、誰かに教えられて育むものではないと個人的には思います。高校生の手紙にあったように、まずは若者が自分自身を好きになれるような社会の形成を目指すことが、大人の役割として求められていることではないでしょうか。
- 「学ぶことは誠実を胸に刻むこと」という言葉が心に落ちた。学びによって得た本当の知識を子どもたちに伝えることに対して圧力がかかる、逆にその知識が真実であることを認めてしまっているなど感じた。本当のことをねじ曲げようとする政治的圧力や、彼らの言葉を鵜呑みにしてしまふ思考停止してしまっている人々に心から嫌気が差すけれど、あきらめてはいけないと改めて自分を鼓舞した。

- このような会があることで、教育に本当に必要なことって何か、教研活動のあるべき姿とは何か、そんなことを考える時間をただで嬉しいです。今回の講演で、1番印象に残っていることは、加害の事実を知ること、なぜ当時の人がそのような思いに引き込まれたのかと考えさせることが大切ということです。事実を全て知った上で、どう学ばせるか、そこが本当に大切だと感じましたし、難しいところでもあったと感じさせられました。

高校生平和大使：小松杏さん(情報科学)

署名ありがとうございました。

教科・問題別分科会

第1分科会

日本語教育

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	夜の立ち食いソバ	福田晃一郎	日田定時制
2	ディベートをしよう	坂本 千秋	久住高原農業

第3分科会

社会科教育

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	関東大震災をジグソー法で探究する歴史総合	田尻 洋佑	中津南
2	新科目「公共」の目指す授業の在り方 ～「公共」を通じた授業改善～	廣岡 健瑠	別府鶴見丘
3	「歴史総合」と「深い学び」	西 裕一郎	大分鶴崎
4	倫理が少ない！	佐藤 邦彦	白杵

「新たな視点と原点」

廣田 典子 (大分東)

本分科会は7名が参加しました。準備していただいたプロジェクターに接続できずスタートが遅れるトラブルもありましたが、終始和やかな雰囲気の中で活発な討議が行われました。田尻先生・廣岡先生・西先生の3名の先生方から新科目「歴史総合」「公共」の授業実践も含まれた大変興味深いレポートを発表していただきました。それぞれの先生方の問題意識から来る課題の設定や題材の教材化、資料の準備、タブレット端末の活用方法など授業づくりに関わる質疑応答や情報交換が行われました。佐藤先生のレポートは新課程によって科目「倫理」の選択機会が失われる危機について問題提起でした。複雑で多様化する現代社会だからこそ「倫理」は必要との認識を共有できました。新学習指導要領により内容も教育課程も大きく変わり、目の前の授業準備に追われる日々ですが、本分科会は改めて社会科教育の目標や役割について考えさせられる貴重な時間となりました。

第4分科会

数学教育

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	それって図を書きませんか？	沼田 庄司	中津東定時制
2	命題の授業で近代の歴史を考えてみました	木本 学	中津東定時制
3	作問グランプリその後	手嶋 章博	杵築

「自由なアプローチ」

多田 政友 (三重総合)

数学教育の1本目のレポートは中津東高定時制分会の沼田先生のレポート「それって図を描きませんか？」。図をかいて図形的に見ることで、違ったものが見えてくる問題をいくつか提出していただきました。インド系？とおぼしき

人のYouTube動画、東京大学の入試問題、中国の統一大学入試問題だったり。先生の見聞の広さに圧倒されてしまいました。2本目は同じく中津東高定時制分会の本本先生のレポート「命題の授業で近代の歴史を考えてみました」。数学から入って、歴史認識についても考えさせられてしまうそのダイナミックな授業は見たことがなく、感嘆するばかりでした（日本に富士山より高い山があったなんて知ってますか）。最後のレポートは杵築分会の手嶋先生のレポート「作間グランプリその後」。生徒に作問をさせるという斬新なとりくみの、誕生から現在、未来を紹介していただきました。こういった新しいとりくみに協力できる教員になりたいと思いつつ、聞かせていただきました。3本のレポートを中心にいろいろと考えさせられることが多い分科会でした。

第5分科会**理科教育**

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	見（魅）せ方にこだわって	堀田 秀俊	安心院
2	現在の高校化学教育の視点について	山中 慎太郎	別府鶴見丘
3	実際に見て触って経験することの大切さ	藤本 一輝	大分工業

「興味・関心を持たせる授業を行うには」

小川 真紀（日田三隈）

理科教育の分科会は、6名の参加で行われ、3つのレポート報告がありました。1つ目は、別府鶴見丘高校の山中慎太郎先生のレポートで、高校化学教育の視点から新課程における授業研究と「指導と評価の一体化」における学習評価について討議がなされ、校内では進路目標を達成させるための教科指導が主となり、興味を持たせる教科指導がこれからの課題であり、評価についても議論しました。2つ目は、大分工業高校の藤本一機先生のレポートで、児童・生徒に学びに向かわせようとするには、楽しさを体験させてから学びに向かわせると教えやすいという観点から、工業化学科の体験授業を通して「理科が好きになった」等の肯定的な回答が100%で、中学生を指導した高校生も教えることの喜びが感じられて大変良かったとのレポート報告でした。3つ目は、安心院高校の堀田秀俊先生のレポートで、見（魅）せ方にこだわった電気回路の教材作成を発表され、サークル活動から日々の授業実践へと繋げていき、ネットワークを広げ情報を共有することが重要であるとの内容でした。その他、新教育課程の内容や評価方法、学校内での悩みなど多くのことが共有でき有意義な討議の時間となりました。やはり、忙しい日々ですが、集まって話をすることの重要性を感じました。

第6分科会**芸術教育**

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	生き続けるための力を育てる音楽科教育とは ～音楽とSDGs～	稲田 雅史	別府鶴見丘

「音楽とSDGs～魅力的なその取り組み～」

大野 清子（大分支援）

ひらめきや感性などが重要だと思われがちな芸術（音楽）を一見遠いような「SDGs」という視点から組み立てた授業実践の発表でした。「役に立つことが求められることが多いが、すぐに役に立つことだけがいいことなのか」「国語科では文学教材が減った。教材の自由度が減ってきた」「人生をより豊かにす

るための教科が芸術や文学なのではないか」「芸術科も思うより自由ではない。役に立つことそのものより、音が生活の中で役に立っていることに気がつくこと」「感性も大事だが、音を科学的に考えることへも興味を持ってほしい」など活発な議論がなされました。レポーター、運営を含め、参加者は芸術家2名、文学教材の変化に不安を感じる国語科教員3名と少数でしたが「観点別評価の困り」「教育基本法改悪後の教科書の変化」など話題が広がり、それぞれの教科で何を教えるのかという原点を大いに考えさせられた充実した分科会でした。

第10分科会	職業教育
--------	------

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	「不確実で予測困難な時代を生き抜く力」をつけていくために必要なこと	藤井 鉄士	大分商業
2	姫島について	佐藤 新太郎	大分工業
3	人の役に立つものづくりで育つ工業の専門性と市民性 —通学路の夜道を再生可能エネルギーで照らす取り組み—	佐藤 新太郎	大分工業
4	ICT活用と観点別評価の悩み	中尾 翔太郎	情報科学

「職業教育発表概要」

中尾 翔太郎 (情報科学)

商業2名、工業4名、計6名で実施しました。

藤井さん(大分商業)は、不確実で予測困難な時代を生き抜く力をつけるためには、AIにはない人間らしさや他者とのかかわることで得られる創造性を身につける必要性があり、その学びあいやそれぞれの気づきの中で自分が社会に貢献していく力が身につくと言われていました。文科省視学官の示したグラフの話題は、批判的思考が大切だと痛感しました。

中尾(情報科学)の発表は、ICT活用についての実践報告と観点別評価の悩みの共有が行われました。

佐藤さん(大分工業)は姫島研修旅行で県内地域の見聞を深め、同時に組合員の親睦も深めていました。小水力発電の開発では特許を取得し、海外(ケニア)での活用、身近な活動でも社会を変えられることができると思える内容でした。生徒が活動を通して自信を持ち、将来の可能性を広げている姿が印象的でした。

活発な意見交流が行われ、あっという間の3時間となりました。

第11分科会	自治的諸活動と生活指導
--------	-------------

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	学級経営における多様性の考慮と取り組み方	佐枝 佑哉	大分工業
2	続 朝清掃のとりくみ	西山 祐一	大分東

「1人の生徒に寄り添う支援は、周りの生徒も変えていく」

竹下 悦子 (安心院)

最初に、大分東分会の西山さんより「朝清掃のとりくみ」の報告がありました。家庭での居場所がなく、早朝から登校している生徒に声をかけて朝清掃を始めたとのこと。西山さんは「意図があつての声かけは警戒される。日常の中で一緒に作業することで、安心感を持ってもらえることができる」と話しました。参加者は、役割のある安心と、全てを受け入れてもらえる安心を得ら

れる活動の場の重要性を改めて考えることができました。次に、大分工業分会から佐枝さんより、学校生活に困難を持つ担任生徒への具体的な支援の方法や関わり方等について報告がありました。教育相談との連携や、特性の把握、関係する教員との連携が難しいということでした。また、同級生がその特性を認めつつ共に学校生活を送っているエピソードもあり、担任の関わり方を見て、周りの生徒も成長していくのだという意見が参加者から上がりました。

第13分科会	人権教育
--------	------

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	学校図書館でイチから考える人権	深藏 剛	鶴崎工業
2	ニュースじんけん	利光 継男	佐伯鶴城
3	人権教育を通して考えたこと	山香 康	中津北
4	「最近気になること」	長尾 秀之	中津東
5	色覚に特性がある生徒の指導について	吉岡 賢二	三重総合

「人・笑顔・元気・輝く」

渡来 幸博 (高田)

レポートは、「学校図書館でイチから考える人権」(深藏先生・鶴崎工業)、「子ども会を通して学んだ人権学習」(福田先生・大分豊府)、「ニュースじんけん」(利光先生・佐伯鶴城)、「人権教育を通して考えたこと」(山香先生・中津北)、「色覚に特性がある生徒の指導について」(吉岡先生・三重総合)の5本。

ここでは、参加した先生方が総括討論で発言された内容を書きます。

- ①「これ、おかしいな」と、アンテナを張る教師の感性の必要性。
 - ②生徒の声(感想)を読んでそのままにせず、キャッチボールをするようにつながることの大切さ。
 - ③「人権教育分科会は、子どものことを真剣に討論する分科会だ」という先輩教職員の言と、その先輩教師が発表しながら「子どもの変化に涙した」ということ。
 - ④人権の話の授業中になると、生徒たちは乗ってくるという現実から、子どもたちが何を求めているのかを心に置いて授業をすること。
 - ⑤学校が差別を植え付ける場所となっていないかについて、ソックスの色(白と黒の違いはどこにあったのか)の例を出して話されたこと。
 - ⑥ブラック企業というときの「ブラック」に黒人の人がとても嫌な気持ちをしているということ。
- ☆人には、常に盲点があります。だから、他者の声に謙虚に耳を澄ますことなくしては、「差別の現実」をつかめないし、みんなが笑顔で元気になる教育はできないのだという思いを強くしました。人権教育は、一人ひとりが輝いて生きるための教育です。来年は、多くの先生方が集うことを期待します。

第14分科会	障害児教育
--------	-------

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	進路保障に向けた取り組みから考えたこと	佐藤 立也	宇佐支援
2	知的障がいの特別支援学校における特別の教科道徳の授業実践 ～3年間の取り組みを振り返って～	牧 雅子	南石垣支援
3	どうする「合わせた指導」?	濱田 眞一郎	由布支援
4	準ずる教育を考える 行政と現場の狭間で思うこと	末永 多香光	もう

「実践や思い、つづやきを語り合い、明日につなげる」

足達 明広 (日田支援)

障害児教育分科会では、4本のレポート発表がありました。もう分会の末永さんからは、「準ずる教育」を行うのに支援学校は取り残されていないかと問題提議があり、ChatGPTの意見も参照しながら議論を深め、県のICT施策の問題点まで明らかになりました。由布支援分会の濱田さんからは、膨大な資料を基に、「合わせた指導」について、これまでの長きに渡るとりくみを振り返らずに、各教科に変えていく流れがあることに警鐘を鳴らされました。南石垣支援分会の牧さんからは、「特別の教科道徳」の実践報告がありました。昨年度に引き続きの報告で、何より楽しく先生方が生徒と一緒に力を合わせて授業を作り、それをブラッシュアップされていく様子に凄さと素晴らしさを感じました。宇佐支援分会の佐藤さんは、進路支援主任の仕事に慣れない中でも一人一人の子どもに寄り添って、進路を考えていく様子がよくわかり、共感することができました。質疑の中で人権感覚についての話が出ましたが、どのレポートにも子どもたちを第一に考えて日々とりくまれている各校のとりくみがわかり、人権感覚に満ちた心温まる分科会になりました。明日からの自分たちのとりくみに活かすことができそうです。

第18分科会

平和教育

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	県内高校生一万人署名活動のひろがりを目指して	佐藤 立也	宇佐支援
2	続 科学的な平和探究を模索	賀来 宏基	別府鶴見丘
3	東京平和学習還流報告	渡邊 龍也	大分工業
4	佐伯の戦争遺構と平和教育	後藤 遥	佐伯豊南
5	「この芝居もっていきます！」生徒とつくる平和のシバイ	福田 晃一郎	日田定時制

「平和教育の現在」

高田 裕介 (大分南)

平和教育の分科会では、4名の先生方がレポート発表されました。まず、宇佐支援分会の佐藤立也先生からは、「九州高校生平和サミット」を大分で開催するためのとりくみについての報告がありました。また、佐藤先生は現在、「知覧フィールドワーク」の主催者として、参加者を募っています。まだ知覧に行ったことがない方は、是非ご参加をお勧めします。詳しくは、宇佐支援分会の佐藤立也先生までお問い合わせください。

別府鶴見丘分会の賀来宏基先生からは、生徒に戦争と平和について様々な観点から考えさせる授業の実践報告がありました。佐伯豊南分会の後藤遥先生からは、戦争を知らない生徒達に、地元の戦争遺跡を見せることや、戦争体験者の体験談を聞かせることの意義についてのお話がありました。大分工業分会の渡邊龍也先生からは、“Happy Xmas War Is Over”という反戦の歌の歌詞を教材として授業を行った、平和教育についての実践報告がありました。

リポーターの皆さんの平和教育への情熱と真摯さのおかげで、分科会の討議は、活発なものになりました。

第19分科会

情報化社会と教育・文化活動

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	学校図書館でイチから考える人権	深藏 剛	鶴崎工業
2	『本日の新聞一面トップ』	後藤 由美	白杵

「学校図書館は何ができるか」

塩月 美和 (由布)

まず鶴崎工業分会の深藏剛さんの「学校図書館でイチから考える人権」では、コロナ禍の混乱の中で、「情報の真偽を見極める力」について考え、そこで得た確かな基準は「人権」であったことから学校司書目線で学習した過程が報告されました。図書館では各種問題別に棚が分散し、根本が捉えにくいという指摘や、「人権コーナー」を設置の有無、設置していなくても、人権講演会の際に関連書籍のブックレットの作成等、各校の工夫が紹介されました。臼杵分会の後藤由美さんの「本日の新聞一面トップ」は、「図書委員が購読している5紙の一面トップ記事の見出しを書き写し掲示する」実践報告でした。とりくみの具体的質問や、うちの場合こうしたら可能かもしれないという前向きな意見が多く出ました。生徒や私たち職員が、情報化社会を生きるリテラシーを身につけるため、人権意識を持ちながら賢くなるために、学校図書館は何ができるかについて熱い思いを感じた分科会でした。

第20分科会	選抜制度と進路保障
--------	-----------

第24分科会	総合学習
--------	------

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	高校の3年間	中野 幸弘	中津北
2	困りのある生徒の進路指導(中・高)	高橋 貴子	別府翔青
3	宇宙STEAM探究とその課題	藪亀 尋子	国東

「うまくいかない時が変わり時」

高橋 貴子 (別府翔青)

まず中津北分会から、定員割れした学年が国公立30名以上の合格を出したしかけの発表。生徒が中心になる学年を目指し、毎週金曜の昼休みに「正副ルーム長会議」を開き、課題として挙げたことを翌週の月曜日に「学年朝礼」で生徒の口から伝える、探求の時間に「哲学対話」、長期休みのたびに「自由研究」を課すなどの実践報告でした。次に別府翔青分会から支援の必要な生徒との向き合い方の発表。入試制度によって高校レベルの学力がないのに入学してきた生徒や困りを持つ生徒がかなり入学している現状の報告でした。最後に国東分会の「宇宙STEAM探究」について探究主任からの発表。学科の専門性を活かして、仕事を教員に振り分けることに工夫が必要だという話になりました。「哲学対話」は他の分会でも実践できるし、生徒の成長や、安心できる居場所づくりとしても有効なとりくみだという話になりました。全体を通して、生徒が年々変化していくため、うまくいかないことは「財産」で、その集団が変わるための刺激なのだという考えを共有でき、とても有益な分科会でした。

第23分科会	教育条件整備の運動
--------	-----------

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	校内情報担当者として思うこと	畑野 新司	中津北
2	理想郷たる学校とは - 子どもたちは学校に何を求め何を感じ、社会に何を求め何を感じているのか -	渡邊 龍也	大分工業

「変革を現場から」

渡邊 龍也 (大分工業)

5名の少人数で議論を深めました。少ないからこそ傍観になることなく、それぞれが感じることや思うことなどについて意見交流をすることができました。討議の柱に直結するレポートではありませんでしたが、話を深める中で討議の柱につながる点も見え、現場実態の伴った議論ができました。議論を通して、教員それぞれが持つ学校や教育に対する“思い”が見えたような気がします。きっと、多くの教員が“思い”を持っているはず。時間に追われるような日々ですが、この“思い”はやはり大切にしていきたいと感じます。「教育条件整備」という大きな目標は組合組織として改善を求める運動を進めながら、現場レベル・個人レベルでとりくめることをちょっとずつ変革を起こしていくことが大切だと感じました。多角的な視野・視点から教育条件を考える機会となりました。

第25分科会 定時制・通信制・分校の教育

	レポートタイトル	リポーター名	分会名
1	まだまだ「定時制のころ」	横山 新太郎	爽風館定時制
2	保護者観覧希望60名やで!! ブラボー日田定体育祭!!	福田 晃一郎	日田定時制

「再生の場としての教育」

堀 晋 (耶馬溪)

分会は柔らかで温かい言葉が終始投げかけられた、生徒が「死ねや殺すぞ」などの言葉を投げかけてきた時、我々に声をかけてくれて「ありがとう」と応えるようにしています。横山新太郎先生がこう述べました。貧困でご飯を食べられない生徒や親からのDV・ネグレクトなど原因は様々にあるが、何かしらをかかえている生徒が来ているのだから、その生徒とコミュニケーションをとることから初めていくことが教育です。小学校・中学校の時に不登校で学力がついていない生徒にいきなり高校の内容を理解してもらうのは難しいので、卒業までに中学校までの内容を理解してもらいたいと話していました。だから、高校入試についても面接でやる気があれば筆記の点が低くても入学させ、手間をかけて手塩にかけて成長させてから卒業させる方向で良いのではないのでしょうかという投げかけもありました。福田晃一郎先生からも同様に職員室の椅子でぐるぐる回っている生徒や、一人での風呂の入りが分からない生徒を手間暇かけて全員を救うつもりでとりくんでいる日田定時制の話を伺いました。その教育には時間と手間がかかる生徒なので、なるべく一人ひとりに多くの時間を割くためには適当な定員でなければならない。生徒が増えるなら教員の数を増やすか、生徒募集定員を20名以下にするなどの措置があった方が良いのではないのでしょうか。話を聞いている先生方は同じような生徒の経験があるのでうなずきながら話を聞き、頑張っている先生の話聞くことで学校に戻ってからも頑張ろうという活力につながりました。

第73次全国研究に、以下の5本のレポートを推薦することが決定しました。

分科会名	リポーター (分会名)	レポートタイトル
音楽教育	稲田 雅史 (別府鶴見丘)	生き続けるための力を育てる音楽科教育とは ～音のデザインを取り入れた授業～
技術・職業教育	佐藤新太郎 (大分工業)	人の役に立つものづくりで育つ工業の専門性と市民性 — 通学路の夜道を再生可能エネルギーで照らす取り組み —
自治的諸活動と生活指導	佐枝 佑哉 (大分工業)	学級経営における多様性の考慮と効果的な取り組み方
高等教育・進路保障と労働教育	中野 幸弘 (中津北)	高校の3年間
教育条件整備の運動	畑野 新司 (中津北)	校内情報担当者として思うこと — ICT教育支援員の常駐化を —